

文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26～30年度）

大学と地域で育てるホームファーマシスト

事業概要説明

在宅チーム医療教育推進室

昭和大学 薬学部 薬物療法学講座
医薬情報解析学部門

加藤 裕久

平成26年11月2日(日) 昭和大学在宅チーム医療教育事業説明会資料

大学と地域で育てるホームファーマシスト

背景（社会のニーズ）

超高齢化が進む日本の医療



基幹病院：急性期医療を主担当

慢性疾患や長期療養・終末期医療や介護の場：病院から地域・在宅医療へ移行



患者の望む生活とQOLの維持・向上を支える医療

NBM[(Narrative based medicine)患者の物語に基づいた医療)の実践

多様な疾患を合併する在宅患者の病状やその変化を把握

- ・医療・介護・社会心理的に適切な対応が必要
- ・「地域包括ケアシステムなど」の取り組みが必要



（在宅医療や介護での、地域の多職種が連携・協力したチーム医療）

薬剤師

- ・在宅チーム医療に加わり情報共有
- ・「ホームファーマシスト」の養成が必要

（患者・家族から臨床情報を収集・判断し治療・ケア・支援を積極的に実践）

背景（従来の薬学教育）

従来の薬学教育→・在宅医療や地域のチーム医療に関する専門的な知識・技能・態度教育が、不十分

→・大学内での臨床前学習や実務実習も不十分

学生・薬剤師→在宅患者に戸惑い、地域の在宅チーム医療への参加に消極的

本事業の目的

目的：社会が求める、在宅患者や家族の思い（ナラティブ）を支え、地域のチーム医療の一員として積極的に治療・ケア・支援を行う薬剤師の育成

方策：

- ・多職種との連携を基盤とした多様な専門的能力の修得が必要
- ・地域のチーム医療の一員として、在宅患者・家族の思い（ナラティブ）と患者の病状やその変化を自ら情報収集
(コミュニケーション、フィジカルアセスメントなど)
- ・多職種と情報共有（ITシステム、文書ミーティングなどの活用）し、適切な治療・ケア・支援（薬物治療、栄養療法、服薬支援、生活介助・支援、褥瘡管理、社会心理的支援など）できる段階的、体系的な4学部連携教育・大学地域連携教育カリキュラムの構築

本事業の特徴

- ① 医系総合大学の特色を活かした段階的、体系的学部連携教育カリキュラムの構築
- ② 多様な教育ツール・システム（IT教材）の構築
- ③ 患者と家族の思い（ナラティブ）を支援するコミュニケーション学習の実施
- ④ 在宅医療に関わる広域地域の医療機関や職能組織との連携
- ⑤ 在宅チーム医療の実習指導者養成とスキルアップ

大学と地域で育てるホームファーマシスト*

～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実践できる薬剤師*養成プログラム～



電子ポートフォリオ (成長のプロセスの評価)

【指導薬剤師】

【卒業教育】

【5-6年次】

【3-4年次】

【1-2年次】

思いを受容し支える力	チームでの問題発見・解決能力	在宅医療実践力 (薬学・医学・歯学・看護・リハ的管理)
<p>高齢者、在宅患者と家族の思い、語り(narrative)を受け入れ、支えるためのコミュニケーション、医療ヒューマンズムを涵養する。</p>	<p>高齢者、在宅患者の抱える問題を発見し、解決するために、多職種が連携・協働し、最善の治療・ケアを立案・実践する能力を修得する。</p>	<p>在宅医療のシステムを理解し、高齢者・在宅患者と家族のQOL・ADLを評価・支援する、多職種が共有すべき専門的な技能を修得する。</p>
<p>6年 【地域の多職種のスタッフと連携し、患者とその家族を支える】 ・学部連携在宅医療実習 + アドバンスPBLチュートリアル</p>		
<p>5年 ・薬局実習、病院実習(学部連携病棟実習含む)</p>		
<p>【患者と家族のナラティブに伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅シミュレーション演習・実習(4年)(ロールプレイ、患者・家族との対話) 高齢者コミュニケーション演習(3年) 	<p>【在宅チーム医療実践の基盤を構築する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4学部連携PBLチュートリアル(3年)(臨床判断・問題解決型) 	<p>【在宅患者を支える技能を修得する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療支援実習(3年)(服薬支援、医療・生活介助、フィジカルアセスメント実習)
<p>【患者と家族の思いに共感する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の倫理(2年) 地域高齢者訪問実習(1年) 	<p>【在宅チーム医療の問題を共有する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4学部連携PBLチュートリアル(課題発見型)(1年) 	<p>【患者を支える仕組みと技能を知る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設体験実習(1年)(支援の仕組みと技能の見学)



在宅チーム医療教育推進委員会

・支援室長 ・職員 ・事務職員 **在宅チーム医療教育推進室**

・昭和大学 医・歯・薬・保健医療学部 教員
・地域薬剤師会、医師会、歯科医師会

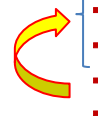


- 体系的教育プログラム作成
- DVD・シミュレーター等の在宅医療教育ツールの作成
- 地域医療連携実習のシステム構築
- 在宅医療が抱える問題に関する調査研究
- 教育プログラムの円滑な運営、評価と改善

各種FD研修会

協力連携施設(1都2県)

- 昭和大学附属8病院 (東京都内、神奈川県内)
- 山梨県内3病院
- 薬局(約50施設)、診療所(約25施設)、特別養護老人ホーム
- 訪問看護ST、歯科診療所、介護支援センター
- 品川・荏原・江東区・大田区・富士五湖地区薬剤師会
- 東京都医師会、大森医師会
- 品川、山梨県歯科医師会
- 富士吉田医師会
- 介護支援専門員協会



取り組みの実施体制

評価・点検
第三者委員会

昭和大学

評価

学長

在宅チーム医療教育推進委員会

在宅チーム医療教育推進室

地域医療教育WG

医学部

歯学部

薬学部

保健医療学部

富士吉田教育部

学内教育
WG

指導薬剤師
養成WG

ワークショップ
WG

教育ツール
WG

地域連携実習
構築WG

情報WG

連携

- ・地域(医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、理学・作業療法士協会、介護支援専門員協会など)
- ・大学病院、地域医療施設(診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護STなど)

事業メンバー

事業推進代表者 小出 良平 (学長)
事業推進責任者 山元 俊憲 (薬学部長)

【大学事務】

主担当 大矢 敦 (財務部研究助成課)
副担当 染谷 広子 (学事部学務課)

【在宅チーム医療教育推進委員会】

委員長	小出 良平	(学長)		
委員	山元 俊憲	(薬学部長)	原 俊太郎	(薬学部)
	加藤 裕久	(在宅チーム医療教育推進室)	佐藤 満	(保健医療学部)
	高木 康	(医学教育推進室)	高宮 有介	(医学部)
	片岡 竜太	(歯学教育推進室)	中村 大介	(保健医療学部)
	木内 祐二	(薬学教育推進室)	鈴木 久義	(保健医療学部)
	下司 映一	(保健医療学教育推進室)	入江 慎治	(保健医療学部)
	田中 一正	(富士吉田教育部)	榎田 めぐみ	(保健医療学部)
	倉田 知光	(富士吉田教育部教育推進室)	鈴木 央	(鈴木内科医院)
	弘中 祥司	(歯学部)	山崎 敦代	(江東とよす薬局)
	村山 純一郎	(薬学部)	小川 路代	(田辺薬局)
	中村 明弘	(薬学部)	日下部 吉男	(薬学部)

事業メンバー

【在宅チーム医療教育推進室】

室長 加藤 裕久 (薬学部 医薬情報解析学部門)
事務局長 竹ノ内 敏孝 (前昭和大学附属藤が丘病院 薬局)
事務局員 小宮 律子

【地域医療教育ワーキンググループ】

ワーキング (WG)	責任者	活動内容
1 学内教育WG	木内 祐二	低学年からの段階的な積み上げ式の大学・地域連携の在宅チーム医療教育カリキュラムの新たな構築。
2 地域医療実習構築WG	中村 明弘	6年次に学部連携チームが地域の多職種の指導のもと、在宅患者を訪問・担当し、望ましい医療・ケア・支援を立案、実施する参加型実習およびアドバンストPBLチュートリアルを行う「地域医療実習」の新たな構築。
3 教育ツールWG	亀井 大輔	在宅チーム医療用多機能シミュレーターの開発。在宅患者事例をチーム討議するための学習用DVDの作成。在宅チーム医療教育に活用できる新教育ツールの開発。
4 指導薬剤師養成WG	田中 佐知子	在宅チーム医療に貢献出来る薬剤師を養成するための生涯教育プログラムの開発。
5 情報WG	大林 真幸	学部を越えた在宅チーム医療教育カリキュラムを支えるITシステムの構築。本事業専用HPの開設。
6 ワークショップWG	日下部 吉男	新たな在宅チーム医療教育の立案を多職種とワークショップ形式で進めるための企画、運営。

平成26年度 事業計画

①在宅チーム医療教育推進室設立（9月～10月）

②カリキュラム検討（9月～12月）

- ・ワークショップの開催（学内および各地域）

③新規授業科目の開講準備（1月～3月）

- ・1年「在宅医療体験」実習協力高齢者の確保
- ・1年「学部連携PBLチュートリアル（課題発見型）」のシナリオ作成
- ・ワークショップ開催、トライアル実施

④教育ツールの開発準備（1月～3月）

- ・学習用DVD
- ・多機能シミュレーター
- ・ITシステム

平成27年度 事業計画

①新規授業科目開始

- ・ 1年「在宅医療体験」実施（4月～）
- ・ 1年「4学部連携PBLチュートリアル（課題発見型）」実施（4月～）
- ・ 6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」実施（4月～）

②新規授業科目の開講準備

- ・ 2年「在宅医療の倫理」（1月～6月）
- ・ 3年「4学部連携PBLチュートリアル（臨床判断・問題解決型）」
- ・ 3年「高齢者コミュニケーション演習」
- ・ シナリオ作成WS（4月～10月）
- ・ 実習指導者養成ワークショップの開催（**6地域**）（4月～9月）
- ・ シナリオ作成とトライアル準備ワークショップ（4月～10月）

③教育ツールの開発（4月～3月）

- ・ 在宅が抱える問題を調査研究
- ・ 学習用DVD
- ・ 多機能シミュレーター
- ・ ITシステム

④「5年次薬局・病院実習」実施（5月～）

⑤卒業指導者のスキルアップ（年2回）

平成28年度 事業計画

①新規授業科目の実施および評価と改善

- ・ 1年「在宅医療体験」実施・評価・改善
- ・ 1年「4学部連携PBLチュートリアル（課題発見型）」実施・評価・改善
- ・ 2年「在宅医療の倫理」実施および評価
- ・ 6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
実施（4月～）

②新規授業科目の開講準備

- ・ 3年「4学部連携PBLチュートリアル（臨床判断・問題解決型）」
- ・ 3年「高齢者コミュニケーション演習」
- ・ トライアル準備ワークショップ（4月～8月）
- ・ 4年「在宅医療支援実習」、「在宅シミュレーション実習」（4月～3月）
- ・ 6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
- ・ 実習指導者養成ワークショップの開催（10地域へ拡大）

③教育ツールの開発（4月～12月）

- ・ 在宅が抱える問題を調査研究
- ・ 学習用DVD
- ・ 多機能シミュレーター
- ・ ITシステム

④「5年次薬局・病院実習」実施と評価（5月～）

⑤卒後指導者のスキルアップ（年2回）

平成29年度 事業計画

①新規授業科目の実施および評価と改善（4月～3月）

- ・1年「在宅医療体験」実施および評価と改善
- ・1年「4学部連携PBLチュートリアル（課題発見型）」実施・評価・改善
- ・2年「在宅医療の倫理」実施
- ・3年「4学部連携PBLチュートリアル（臨床判断・問題解決型）」の**実施**
- ・3年「高齢者コミュニケーション演習」の**実施**
- ・6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
実施

②新規授業科目の開講準備

- ・4年「在宅医療支援実習」、「在宅シミュレーション実習」
- ・トライアルの実施、**SP養成**
- ・6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
- ・実習指導者養成ワークショップの開催（**20地域**へ拡大）

③教育ツールの開発および**トライアルの実施**（4月～12月）

- ・在宅が抱える問題を調査研究
- ・学習用DVD
- ・多機能シミュレーター
- ・ITシステム

④「5年次薬局・病院実習」実施と評価（5月～）

⑤卒業指導者のスキルアップ（年2回）

平成30年度 事業計画

①新規授業科目の実施および評価と改善（4月～3月）

- ・ 1年「在宅医療体験」実施および評価と改善
- ・ 1年「4学部連携PBLチュートリアル（課題発見型）」実施・評価・改善
- ・ 2年「在宅医療の倫理」実施および**評価と改善**
- ・ 3年「4学部連携PBLチュートリアル（臨床判断・問題解決型）」実施・**評価・改善**
- ・ 3年「高齢者コミュニケーション演習」の実施と**評価と改善**
- ・ 4年「**在宅医療支援実習**」、「在宅シミュレーション実習」の**実施**
- ・ 6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
実施と**改善**

②新規授業科目の開講準備

- ・ 4年「在宅医療支援実習」、「在宅シミュレーション実習」
- ・ SP養成
- ・ 6年「学部連携在宅医療実習」、「アドバンストPBLチュートリアル」
- ・ 実習指導者養成ワークショップの開催（**25地域**へ拡大）

③教育ツールの実施と評価と改善（4月～12月）

- ・ 在宅が抱える問題を調査研究
- ・ 学習用DVD ・ 多機能シミュレーター ・ ITシステム

④「5年次薬局・病院実習」実施および評価と改善（5月～）

⑤卒業指導者のスキルアップ（年2回）

⑥教育プログラムおよび教育ツールの公開と評価および改善